

南部中学校総括評価表 (No1) 令和2年度末

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
1 学校運営	① 教育目標・教育方針の教職員生徒、保護者への周知徹底 ② 教職員の資質の向上 ③ 保護者・地域への情報発信	評価指標 ① わかりやすいとする保護者 ② 資質向上に取り組んでいる教員 ③ 学校は情報発信しているとする保護者	評価指標の達成度 ① A ② A ③ A	総合評定 評価指標の達成度を平均 (評定) A (所見) メンター研修の中でもICTを活用した研修を取り入れ、授業での活用も増えてきた。感染症対策等の連絡メールが多くなり、保護者への広報活動も活発となった。	メンター制を取り入れた校内研修により、若手教員の指導力向上を図ることは、南部中にとっても大変重要であり、今後も時間を確保して継続し、若手教員をバランス良く伸ばしてもらいたい。 コロナ禍の中、保護者の不安を少なくするためにも連絡メール等の情報発信する姿勢はよいと思われる。
		活動計画 ① PTA総会や学校行事等での教育目標・教育方針の説明・周知と各種たよりやHPの活用 ② 昨年度の調査研究事業の成果を取り入れた授業改善の取組 ③ 連絡メールやHP更新など迅速な情報発信	活動計画の実施状況 ① 感染症対策により、PTA総会や学校行事がほとんど中止となった。各種たよりとHPを充実させ周知と理解に努めた。 ②-1 メンター制を取り入れた校内研修を年3回実施した。 ②-2 板書の工夫やICT活用掲示物の工夫による授業等の取組の「みえる化」を行った。 ③ 感染症対策や緊急連絡気象警報発表時等に連絡メールを活用した。		
2 学力向上・教科指導	① 学習意欲の向上と学習習慣の確立 ② 授業力向上の工夫・充実 ③ 家庭学習の定着	評価指標 ①-1 教員が工夫して授業を進めていると考える生徒 ①-2 授業中に質問をしている生徒 ② 授業力の向上に努めている教員 ③-1 家庭学習を行っている生徒 ③-2 家庭学習の時間増の工夫をしている教員	評価指標の達成度 ①-1 A ①-2 C ② A ③-1 A ③-2 A	(評定) A (所見) 基礎基本の定着に向けて継続して小テストを実施するなど様々な取組が行われた。感染症対策により、グループ活動やペア学習ができず、言語活動を意図的に設定する授業ができなかった。	メンター制を取り入れた校内研修は、若手教員を指導する中堅・ベテラン教員の指導力や意識をさらに高めることにも資するものである。 すばらしい考えや意見をもっている生徒が、しっかり表現できる授業の工夫が必要でないと思われる。ただ、コロナ禍での先生方の授業展開は思うようにいかず大変だったと思われる。また、読書の大切さを実感させ、読書の継続を促す必要があると思われる。
		活動計画 ①-1 学力向上検討委員会における実行プランの充実 ①-2 TT指導の充実 ②-1 教科サポートチームの活動を通しての研修 ②-2 朝読書の推進 ③-1 宿題等の工夫及びその点検 ③-2 放課後学習の実施	活動計画の実施状況 ①-1 「学習の手引き」を継続使用し、効率的な学習指導を実施した。 ①-2 TT指導による基礎的基本的な内容の定着を図った。 ②-1 メンター制等による教師力向上研修に年3回取り組んだ。 ②-2 各学年で、朝読書を実施した。 ③-1 宿題等の工夫と点検、長期休業中の課題とそれに基づく確認テストを実施した。 ③-2 放課後の補充学習を計画的に実施した。		
3 生徒指導・交通指導	① 基本的生活習慣の定着 ②-1 生徒理解と相談体制の充実 ②-2 いじめ防止対策 ③ 交通指導の充実	評価指標 ① 遅刻せずに登校する生徒 ②-1 教員が適切に指導しているとする保護者 ②-2 自他ともに大切に指導に取り組む教員 ②-3 いじめ問題等相談しやすいとする生徒 ③-1 交通ルールを守っている生徒 ③-2 交通ルールを指導する教員	評価指標の達成度 ① A ②-1 A ②-2 B ②-3 B ③-1 A ③-2 B	(評定) A (所見) 生徒がいじめを相談できる環境をつくり「いじめは許さない」という意識を高め、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいる成果が表れていると思われる。 1年生の交通安全教室を開催し集会や学活を通して常時指導を行っている。	「ともに前へ！」を合い言葉に、生徒とともに活動する機会を教職員が大切にする。 生徒からのつぶやきや生活記録など、生徒がいじめを相談できる環境を多くつくり、いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組む。 1年生対象の交通安全教室をできるだけ早期に実施する。さらに安全教育担当を中心に集会や学活等を利用して、安全指導をする機会を積極的に設ける。
		活動計画 ① チャイム着席・交通立哨指導 ②-1 相談体制の確立 ②-2 いじめ問題等対策委員会を活かした校内体制の確立 ③ 計画的な安全教育への取り組み	活動計画の実施状況 ① 朝と休み時間の巡視を実施した。 ②-1 SCを中心とした相談活動と随時家庭連絡を実施した。また、適応指導教室(すだち学級)と連携した。 ②-2 学校いじめ防止基本方針に基づくいじめ問題等対策委員会において年5回アンケート調査を実施した。 ③ 交通安全教室と登下校時の立哨指導を適宜実施した。		
4 保健指導・給食指導・環境美化	① 保健指導の徹底 ② 給食指導の徹底 ③ 環境美化の推進	評価指標 ①-1 健康に気をつけている生徒 ①-2 健康に生活できるよう指導する教員 ②-1 食生活に関心を持っている生徒 ②-2 食生活を見直すよう指導する教員 ③-1 清掃活動に積極的な生徒 ③-2 清掃指導ができていると考える教員	評価指標の達成度 ①-1 B ①-2 A ②-1 B ②-2 A ③-1 A ③-2 A	(評定) A (所見) 全教職員で手洗い・手指消毒等感染症対策の周知徹底に努めている。「保健だより」「食育だより」を発行し生徒だけでなく保護者にも啓発を行っている。 校舎内外でゴミの無い美しい環境が保たれている。	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、新しい生活様式を身につける。 栄養教諭や養護教諭との連携を密にし、自己の心身の健康について考える行事や授業を継続する。 全校生徒・全教職員が校舎内外の美しい環境づくりに努める。
		活動計画 ① 保健指導計画の立案と学校保健委員会の開催 ② 給食指導計画の立案と給食時間の指導 ③ 清掃担当者による清掃計画の立案と清掃指導	活動計画の実施状況 ① 毎月の「保健だより」発行と学校保健委員会を開催した。 ② 全教職員で給食時間の指導と「食育タイム」の充実を図った。 ③ 清掃担当者による清掃強化週間の実施と全教職員による清掃指導を実施した。		

南部中学校総括評価表 (No2) 令和2年度末

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評定		
5 図書館教育・キャリア教育・生徒会活動	① 図書館の積極的な活用 ② 進路指導の充実 ③ 生徒会活動の活性化	評価指標 ①-1 授業で図書室を活用する教員 ①-2 年間10冊以上本を読む生徒 ②-1 将来の職業に関心がある生徒 ②-2 継続的な進路指導をしている教員 ③-1 生徒会行事等に積極的な生徒 ③-2 専門委員会が充実していると考える教員	評価指標の達成度 ①-1 C ①-2 C ②-1 B ②-2 A ③-1 B ③-2 B	(評定) B (所見) 生徒会活動に積極的に取り組む本部役員生徒が校内・地域のリーダーとして自覚的な取組を始めている。専門委員会でさらに活動が広がるよう工夫をしたい。	徳島市の約3割、小松島市とほぼ同じくらいの広い校区を持つ南部中です。近い将来必ず発生する南海トラフ巨大地震や津波に備える地域のリーダーとなり得る生徒の育成を期待しています。勝占中部コミセンと共同で作成してくださったマップは我が家でも役立っています。	図書室の使用の利便性を周知したり、図書室の本を充実させたりして、図書室の活用や生徒の読書を活性化する。 生徒会本部役員が校内や地域のリーダー的立場に成長してきているので、活動のより一層の活性化をめざす。
		① 「図書室カレンダー」の発行とお薦めの本の紹介 ② 3年間を見通した進路指導計画の立案と職場体験活動の立案・実施 ③-1 生徒会活動の見直し ③-2 「あいさつ運動」の実施や地域防災活動に参加	①-1 図書室運営が計画的に工夫して行った。 ② 発達段階に応じた指導計画にそって実施した。 ③-1 月1回専門員会で自主的な活動を実施 ③-2 生徒会活動の主力となる本部役員が地域の防災活動に参加するなど校内だけでなく地域のリーダー的立場に成長してきた。			
6 人権教育・道徳教育・特別支援教育	① 人権教育の推進 ② 道徳教育の推進 ③ 特別支援教育の推進	評価指標 ①-1 学校に来るのが楽しい生徒 ①-2 温かい言葉がけをしている教員 ② 私には良いところがあると考える生徒 ③-1 友だちの良さを見つけている生徒 ③-2 支援の必要な生徒を把握している教員	評価指標の達成度 ①-1 B ①-2 A ② B ③-1 A ③-2 A	(評定) A (所見) 自己肯定感をいっそう高められるよう、教師が生徒に自信を持たせたり自分の良さに気づいたりする活動を継続的に取り入れている。	生活力を高めるために20年先30年先を見据え、生徒を育てていくことが大切である。特別支援学級の生徒への支援も社会に目を向けていけるように行ってほしい。	自尊感情や自己肯定感を高められるよう、生徒に自信を持たせたり、自分のよさに気づいたりする活動を様々な場面での工夫を続ける。 人権教育や道徳教育を充実させるためにも、教職員が積極的に研修を実施し、生徒個々のニーズに合わせた指導ができるよう努める。
		活動計画 ① 人権教育主事を中心に人権教育の実践 ② 道徳教育推進教師を中心に活動計画を立案 ③2 入学前を含めて年間4～5回の教育相談を実施して、特別な支援を必要とする生徒のニーズに応じた支援に努める。	活動計画の実施状況 ① 人権教育主事を中心に活動計画に基づいて活動した。 ② 道徳教育推進教師を中心に学年の活動計画に基づいて研修を実施した。 ③ 校区内小学校支援学級との連携を強化し、交互の参観授業ならびに個別のニーズや支援についての面談を実施した。			

「評定」の基準 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:達成できなかった